

動詞の活用 5組×7組用 早川千春作成

試験を想定したものではありませんので、責任は負えません。原則として、指定の文法書、問題集である「新修古典文法」「ノート」をしつかり読みましょう。

レベル1 活用の種類が言える 唱える「3・6の9種類」

一般的な活用

四段活用・下二段活用・上二段活用 の3種類

単語を覚える活用

上二段活用・下二段活用・サ行変格活用・カ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用

唱える「サカナら！」

レベル2 単語を覚える活用の単語を丸暗記！

上二段 唱える「君にいい日」

き 着る・

み 見る・試みる

に 煮る・似る

い 射る・鑄る ヤ行活用

ゐ 居る・率る・用ゐる・ひきゐる ワ行活用

ひ 干る

下二段

蹴る 4段じゃない！

サ変 すゝする おはす

カ変 くゝ来る

ナ変 死ぬ・去ぬ 唱える「死ぬ犬」

ラ変 唱える「あり・をり・はべり・いまそかり」

動詞を見つけたら、ここにある動詞かどうかを確かめる。

ある＝この中のどれか

ない＝四段、二段のどちらか

つまり、ここにはない動詞を、ここにある活用の種類で答えない！絶対に間違い。

レベル3 一般的な動詞の活用を見分ける。

右の動詞ではない＝その他大勢、全部四段か、二段かだ！

「ず」をつけてみる＝「aず」「iず」「上二段」「eず」「下二段」

例・咲く 咲かず 力行四段 流れる 流れず 力行下二段 過ぎる 過ぎず 力行上二段

終止形「もとの形」を考える

四段活用「現代語と古語の形が同じ」咲く 咲く

二段活用「現代語と古語の形が違う!!!」

現代語 流れる 古語 流る

過ぎる 過ぐ

投げる 投ぐ

起きる 起く

寝る ぬ

経る ぶ

得る う 唱える ア行活用は「得(う)」「のみ」

つまり、二段活用は、現代語で「る」となっている単語。その「る」をとって、「ら」に直すと古語ができる。

古文でなんだかよくわからない単語は、二段活用の確率が高い。その時は逆に「る」をつけてみるとよい。

例：なく ??? なく「る」 ながる or なぎる

：あく ??? あく「る」 あける or あきる

：ぬ ??? ぬ「る」 ねる or なる

例外 恨む・忍ぶ のように、現代語では四段だが、古語では二段のものもあるので注意。

走る・踊る のように、「る」で終わってもラ行四段活用のもものもある。これは順番通り「ず」をつければ、「る」なので、四段とわかるはず。ひっかからないように。

レベル4 活用させる言葉覚える。

活用とは、下(上)の場合もある(に特定の言葉がつくこと)によって、形が変わること。したがって、下の言葉覚える。

未然 ず

連用 て

終止 。

連体 こと

已然 じ

命令 (命令)!

唱える ず・て。。・ら・じ

レベル5 活用させる。基本的に唱えること

四段 咲く

咲かず・咲きて・咲く。咲くこと・咲けど・咲け 楽勝・フィーリングでok
下二段 流る

流れず・流れて・流る・流ること・流るれど・流れよ

傍線部注意！唱えること。終止形を間違えないように。

上二段 過ぐ

過ぎず・過ぎて・過ぐ・過ぐること・過ぐれど・過ぎよ

u.・u.る・uれ

上二段 見る で覚えるときよい。

見ず・見て・見る。・見ること・見れど・見よ 楽勝・フィーリングでok

下二段

上二段と同じ と思う。見るが見ずだから、蹴るは？とやる。

けず・けて・ける。・けること・けれど・けよ 上二段がわかれば楽勝

サ変 する だと思えばいいだけ。

せず・して・す・すること・すれど・せよ する と思えば楽勝

力変 来る だと思えばいいだけ。

こず・きて・く・くること・くれど・こよ 来る と思えば楽勝

サ変・力変は楽勝だが、終止形を「する・くる」にしないこと

ナ変 ちよつと難しい。死ぬ しに 42 四段から二段

死なず・死にて・死ぬ。ここまで四段。このままだと変でないから二段へ

死ぬること・死ぬれど・死ぬ

ラ変 終止形がわかれば楽勝

あらず・ありて・あり・あること・あれど・あれ 変なのは終止形だけ。